

総論

満点	200点	目標得点	140点	試験時間	80分	偏差値	法律:77 政治:76
大問数	5	小問数	60				
【解答形式】		選択式	60/60問	記述式	0/60問	論述式	0/60問
【問題難易度】		C	2/60問	B	14/60問	A	44/60問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：全てマーク式の選択問題
- 2：総語数 4,000 強、試験時間 80 分
- 3：読解力重視

こんな力が求められる！

語彙レベルは『でか単』PART 3 の\*マークまでで、極端な難語の知識は不要。センター試験なら安定して9割を取るくらいの力が必要。発音問題、文法問題も出題されているがせいぜい1割程度。残りは会話と論説が2題ずつの長文問題となっている。長文問題でも単純な熟語問題や文法問題を織り込むことは出来るのだがそういった問題は皆無に等しく、文脈が追えているかを問うものばかりで占められている。特徴としては「空が限界となる」(＝天井知らず・際限なく上がる) だとか「作者の身内以外は2度と見る価値もない」(＝駄作) だとかいった少々ひねった表現の背後にある意図が汲めるかを見る問題が好んで出題されている。字面に捕われず話し手の意図を取る力のある人には圧倒的に有利と言えるだろう。ただし「字面に捕われない」というのはそれを保証するだけの基本的な英語力ができているということで、単なる妄想とはわけが違う。こういう問い方をすることで透明化した英語というか、身に付いた英語力がどれだけあるかを見ることになる。

大問別分析

【I】

予想配点	20 / 200点 (各2点)	時間配分の目安	5 / 80分
出題内容	[A]発音 [B]文法		
出題形式	[A]強勢 [B]正誤		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す [A] (1) A (2) A (3) A (4) A (5) A [B] (6) B (7) A (8) A (9) A (10) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	[A]語彙レベルは『でか単』PART 2 程度。秋のセンター対策回や1月期の演習授業で扱う。 [B]冬期講習「語法完成①・②」で全て扱うが、まずは1・2年および3年前期で文法事項を一通り押さえておくことが必要。 Ad/St クラス：前期平常授業の文法単元＋夏期講習の「英文法完成」。 OSクラス：前期平常授業の work sheet。		

●解答のポイント&学習対策等

[A]

# Benesse® お茶の水ゼミナール

第1アクセントの位置が異なるものを4つのうちから選ぶというもの。アクセント問題として頻出語である technology, career, diplomacy などを含む標準的なもので、名前動後や接尾辞といった一般的知識で解ける問題も入っている。語彙レベルは『でか単』PART 2程度。秋のセンター対策回や1月期の演習授業など、平常授業の中で充分対応できるが、むしろ日頃から口に出して覚えるなど普段からの学習習慣で差がつく。

[B]

いわゆる正誤問題だが、4つの短文から誤りを含むものを選ばせる形式。副詞の位置や動詞の語法、態などを問うごく標準的なもの。例えば(6)は「Oに加わる」という意味の動詞 join と、「Oに参加する」という意味の群動詞 take part in (=join in)がとる目的語の種類の違いを問うもの。join の目的語は「人・団体」で、take part in / join in は「活動」が基本。日本語だとうっかりすると「加わる」も「参加する」もごっちゃになってしまうので注意ということ。この程度の意識は当然必要だろう。さらにこの問題では take part in the team はOKかという選択肢も混ぜてある。答えは「OK」。でもここは問題ないだろう。こうした問題の演習は平常授業でももちろんだが、高3冬期講習の「語法完成ゼミ」で徹底的に行う。

## 【II】

<b>予想配点</b> 45 / 200点 (各3点)	<b>時間配分の目安</b> 10 / 80分
<b>出題内容</b> 会話文 [Word数] 346語 [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』共に PART 2] [長文テーマ] 雑談 [長文内容] 鍵をなくしたテルオがアランと有意義とは言えない会話を続けていると…	
<b>出題形式</b> 文補充	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (11) A (12) A (13) A (14) A (15) B (16) A (17) A (18) B (19) A (20) A (21) A (22) A (23) B (24) B (25) A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> 平常授業の reading パート。特にOSクラスの reading 【1】。夏期講習の「早慶 reading」。	

### ●解答のポイント&学習対策等

[A] ~ [E]

400 word 弱の会話問題。形式は全て空欄に語句を入れて行くものだが、3つごとに [A] ~ [E] 5つの小問にまとめられている。選択肢が10本にもなるので少し面食らうが品詞がまちまちなのでまずそこから絞り込める。例えば冒頭の「何か探しているの？」に続く最初の設問を見てみよう。

(11) My keys, I ( ) I put them down on this table...

(鍵さ。(誓って) このテーブルに置いたんだ…)

とあるから三単現の -s の付かない動詞が入ることはすぐ分かる。後ろに I put と続いているので that 節をとる報告動詞であることも分かる。この時点で選択肢は could swear と could understand のいずれかに絞られる、といった具合である。ここまで来れば後は文脈から容易に could swear を選ぶことが出来る。こうした問題でしっかり点を稼げるようになったら、つぎは(15)のようなBレベルの問題への取り組みだ。

(15) If you mean things like your girlfriend's birthday, credit card numbers and so on, I can't remember a time when I haven't forgotten them---( ) what I mean.

(彼女の誕生日とかクレジットカードの番号とかの話なら、忘れない時がないくらいだね——言いたいことが(分かってもらえるかどうか))

# Benesse® お茶の水ゼミナール

Yes, those things seem to be universal...

(分かるよ。そういうのは万国共通らしいね…)

正解の if you see [know] what I mean (言いたいこと分かるかな・こういう経験あるかな) は、ネットでも IYSWIM などと略される実はおなじみの表現なのだが、people tell me (what I mean) (×) などという選択肢を見ると迷ってしまう人が出て来るだろう。だが IYSWIM を知らなければ解けないということではない。people tell me what I mean (人が私の言いたいことを私に告げてくる) といったら、ある種の精神病のような極めて不気味な体験を表すことになるし、if は選択肢を相手に開いて Yes / No を言わせる力がある。これはむしろ tell, mean, if といった単語の感触が身に付いているかを試す問題になっていると言えるだろう。こうした問題で躓かないレベルに達するためには本当に大量の英文をしかも丁寧に読んで行くことが必要になる。手っ取り早いのは先生との精緻な文章の徹底的な読み合わせである。

## 【Ⅲ】

予想配点	42 / 200 点 (各 3 点)	時間配分の目安	10 / 80 分
出題内容	長文 [Word 数] 497 語 [『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』PART 3 (*のついた単語レベルまで) 『完熟』PART 2 [長文テーマ] 文壇批評 [長文内容] 書評を書いてもらうための要件など、ざっくばらんな書評論。		
出題形式	[A]空欄補充(選択) [B]同意文 [C]内容一致		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (26) A (27) A (28) A (29) A (30) A (31) A (32) A (33) B (34) A (35) A (36) A (37) B (38) A (39) B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業の reading パート。および長文マラソン。		

### ●解答のポイント&学習対策等

[A] 空欄補充、[B] 同意文選択、[C] 内容一致文選択の3種の設問からなる。

[A] は長文中の空欄に選択肢から単語(名詞のみ)を選んで入れていくもの。文法、熟語を問う知識問題でも、ディスコースマーカーを問う知能問題でもなく、結果としてきちんと文脈が追えているかを確認する読解問題となっている。単語レベルは publicity, debate, quantity といった程度で『でか単』PART 2 レベル。romance (恋愛小説) や、point (程度・レベル) といった多義語も含まれるが、特にそのために勉強しなければいけないという程のものではなく、冷静に読んでいれば対処できるだろう。

[B] は文章中の一節に下線が引かれ、同じ意味になっているフレーズを4つの選択肢から選ぶというもの。これも take care of を look after で言い換えたようなお決まりの問題は見られず、ほんの少しだけ凝っている。

(34) those who fail to live up to their early creativity

(若い頃の創造性に届かない人々)

→those authors who have declined in the quality of their literary output

(作品の質が下がってしまった作家)

また、次のような少し気の利いた表現の意図が汲めているかを試す問題も出題されている。

(33) are not worth a second glance except by their authors' relatives

(筆者の親戚を除けば二目と見るに値しない(作品))

# Benesse® お茶の水ゼミナール

→are only looked at by the author's family (×)

(著者の家族によってのみ目を向けられる)

→are very poor in quality (○)

(非常に出来が悪い)

あくまで「価値 (worth)」の問題で、家族がどうというのはたとえ話である。

そうかと思えば、調子に乗って気分良く読んでいるとむしろ足下をすくわれるような問題も混ざっており、油断がならない。

(35) The number of column inches

(与えられる欄のインチ数 (は、その本が売れそうかどうかとは全く比例しない))

→The praise (×)

(賞賛)

→The space (○)

(欄の大きさ)

前後を確認すると「伝記にあてられる書評は長くなりがちだ。そこそこ読める書評が書けるからという書評家の都合のためだ」という文脈である。別に作品をほめているわけではなく、自分が書きたいから文が長くなり枠が大きくなるというだけである。嗅覚のみで読んでいる受験生はころりと引っかかるだろう。そうした受験生に対する牽制も加えているわけだ。

## 【IV】

<b>予想配点</b> 45 / 200 点 (各 5 点)	<b>時間配分の目安</b> 30 / 80 分
<b>出題内容</b> 会話文 〔Word 数〕 961 語 〔『でか単』『完熟』レベル〕 『でか単』『完熟』 共に PART 2 〔長文テーマ〕 新アルバムについて 〔長文内容〕 あるロック歌手へのインタビュー。多国籍バンドの新作のテーマは環境問題。	
<b>出題形式</b> 文整序	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (40) B (41) B (42) B (43) C (44) C (45) B (46) B (47) A (48) A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> 平常授業の reading パート。および長文マラソン。特に O S クラスの reading 【1】。夏期講習の「早慶 reading」。	

### ●解答のポイント&学習対策等

一種の会話文問題だが、ロック歌手へのインタビューという設定で、インタビューアのセリフだけがずらりと並び、バラバラに並べられたロック歌手の返答をうまく入れてゆくという文整序問題になっている。ロック歌手の返答はひとつ 150 words に及び、インタビュー形式ということで話の展開が予測しにくく、普通の論説文を使った東大の文整序より対策が立てにくいかも知れない。この試験最大の難所となっている。

文整序問題の基本的な解法は、this や the などの指示語に注意して、それが前の文の何を指しているのか、それで文意が通じるのかを手がかりに解き進めるというものである。

(40) ...Charlie, you've already had two number-one selling albums and your latest disc Clean World has been in the charts for three months now. What is the key to your success, do you think?

(…チャーリー、すでにナンバーワンアルバムが 2 枚あり、最新アルバムの「クリーン・ワールド」もち

# Benesse お茶の水ゼミナール

ャートに入ってもう3ヶ月になるよね。成功の秘訣って何なんだろう?)

We would like to put that question to you. It is hard to tell if we have made a hit till we actually release an album...

(そんなのこっちは聞きたいよ。実際リリースしてみるまで売れる作品ができたかなんて分からないからね。…)

that question は「成功の秘訣は何か」というインタビューアの質問自体を指しており、セオリー通りに解ける。論説文だとこのような「新情報」→「旧情報」のつながりはいっそうきちんとしているので並べ替えがしやすいのであるが、会話文では必ずしもそうはいかない。やり取りは旧情報を用いずにスピーディに行われる。とするとやるべきことは、質問者の意図を汲み取り、返答者の意図を汲み取り、背後で成立しうる会話の流れを想像する、ということになる。しかも妄想になってはいけない。健全な物語のパターンは限られてくるはずである。

「文化によって一つの単語に様々なアイデアやイメージがある。アルバムタイトルの『クリーン・ワールド』の意味についてもメンバーでいろいろと議論して有意義だった」というロック歌手のセリフに続けての次の問題。

(43) But obviously, as a band, you couldn't see things the same way this time.

(でも確かに、今回君たちは同じひとつのバンドなのに同じようにものを見れなかった)

Exactly. As an Irishman, I have always been on the "green" side. All the same, I'm not as extreme as Jamie or Nahor. Hiro is pretty skeptical about the growing eco-friendly movement in his country...

(その通り。僕はアイルランド人でいつも「グリーン(環境主義)」側だったんだ。とはいえジェイミーとかネイハーほど極端じゃない。ヒロなんかは日本の「環境にやさしく運動」の高まりにかなり懐疑的だね。…)

「同じようにものを見れない」というところを具体的に言い換えている選択肢を選ぶわけで、そこはさほど難しくないのだが、インタビューアの But obviously が気になる。ロック歌手の前のセリフ「いろんな意見が出て有意義だった」と同内容のことを言っているのに逆接で結んでいるからだ。あわてて一つ前のロック歌手のセリフを別のものに変えてしまいたくなるが、このままで正解。これはいわば「揚げ足取り」になっている。「『いろんな意見が出て有意義だった』などと得意がっているが、一つのバンドとして意見にまとまりがないのはいかがなものか？」とインタビューアが突っ込んでいるわけだ。ロック歌手はこれに刺激されて「ああバラバラでいいのさ。そこが面白いんだよ。例えばね…」と盛り上がってくる、という場面である。

会話はその後「単なる『環境を守れるスローガン』に収斂しないんだね」「そうだよ、いろんな政治的メッセージを含んだアルバムなんだ」と続いていく。このあたりの文脈を整理するにはとんでもない情報処理力が必要に見えるかもしれないが、一つヒントを言っておくと、この時大事なのは話者の「意図」である。単なる「抽象-具象」の往復ではない。文修飾の副詞 But...as a band...couldn't に含まれるインタビューアの意地悪を汲み取れた人が、それほど苦もなく自然に次へと進めるのである。こうした力は様々な文章の読み合わせ(e.g. 「ここ、インタビューア一つこんでるよね」「歌手もムキになってるんだろうね」「実はインタビューアの思惑通りじゃない?」「あ、そういう流れなんだ」)を通じて物語のパターン(e.g. 揚げ足取り、皮肉、当てこすり、誤解...)をたっぷり取り入れてゆくことで身に付いていく。平常授業の reading 部分(の予習・復習)がとにかく重要だ。

## 【V】

<b>予想配点</b>	48 / 200 点 (各 4 点)	<b>時間配分の目安</b>	20 / 80 分
<b>出題内容</b>	長文 [Word 数] 1078 語 [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』共に PART 2] [長文テーマ] 経済哲学 [長文内容] 幸福を富によって一元的に理解しようとするのは間違いだ。		
<b>出題形式</b>	段落要旨 (選択)		
<b>小問別難易度</b>	※問題難易度: C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (49) A (50) A (51) A (52) A (53) A (54) A (55) A (56) A (57) A (58) A (59) A (60) - (61) B		
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b>	平常授業の reading パート。および長文マラソン。		

### ●解答のポイント&学習対策等

「幸福」は必ずしも経済的尺度で測れないという内容の論説文で 1000 words を超える長さがあるが、各段落に一つずつ内容一致問題が置かれている形式なので、段落読んだら一問解くということができ取り組みやすい。設問も素直なものなのでむしろ読解のヒントとなるであろう。いかに簡単か示すために、長くなるが例を引こう。

[A]

Suppose you believe that a central aim of public policy in a democratic society should be improving the welfare of its citizens. Even when resources are plentiful, this is a challenging task because of the difficulty of determining what "welfare" consists in. Beyond basic necessities, there is great variation in what people want out of life. This is true with respect to material goods, and also true with respect to what people want from their work, their medical care, their educational opportunities and just about everything else. So any specific use of public resources is likely to please some people and displease others.

(仮に民主社会における公共政策の中心的目標は市民の幸福を増大させることだと考えてみよう。資源が充分あっても「幸福」が何にあるのか決定するのが困難なため、これは難題となる。基本的必需品を満たしてしまえば、後は人が人生に求めるものは非常に多様である。これは物質的な品物に関してもそうだが、職業、医療、教育機会、その他ほぼあらゆるものに対して人が求めるものに関しても当てはまる。従っていかなる公共資源利用を取ってみても人によって満足だったり不満足だったりする。)

(49) Which of the following statements can best be derived from paragraph [A]?

1. Welfare is a hard concept to define.
2. People who believe in welfare also believe in democracy.
3. Welfare means providing people with the basic necessities.
4. Most people agree on what welfare consists in.

(段落 [A] から最もよく引き出せる言説はどれか。)

1. 幸福は定義しにくい概念である。
2. 幸福を信じる人は同様に民主主義も信じている。
3. 幸福とは人に基本的必需品を供給することを意味する。
4. 大抵の人は幸福が何にあるのかについて意見が揃う。

1. が正解となる。単語レベルも標準的で、Weekly テスト で 80 点とっていればこの程度の文章は苦も

# Benesse® お茶の水ゼミナール

なく読めるようになるだろう。これはいわばサービス問題で、全問正解も難しくない。むしろこの問題のためにどれだけ時間を取っておけるかが合否を分けると言ってもいいだろう。どの問題がサービス問題となるかは年度によって変わる可能性があるので、本番ではまず始めに全体に目を通して解けそうなものを見つけたという作業が必要となる。もちろん過去問に当たっておくことが重要なのは言うまでもない。

-----

## 【合格者の自己採点例】 ※小問ごとに正解は○、不正解は×

<b>【Ⅰ】</b> [A] (1) × (2) × (3) × (4) × (5) ○ [B] (6) × (7) × (8) ○ (9) ○ (10) × 〔得点〕 [A] 2点×1=2 [B] 2点×2=4 〔正答率(正解の小問数/全小問数)〕 [A]20% [B]40% 〔大問における得点〕 [A]2点 [B]4点
<b>【Ⅱ】</b> (11) ○ (12) ○ (13) ○ (14) ○ (15) × (16) ○ (17) ○ (18) × (19) × (20) ○ (21) ○ (22) ○ (23) × (24) ○ (25) × 〔得点〕 3点×10=30 [正答率(正解の小問数/全小問数)] 67% [大問における得点] 30点
<b>【Ⅲ】</b> (26) ○ (27) ○ (28) × (29) ○ (30) ○ (31) × (32) × (33) ○ (34) × (35) × (36) ○ (37) ○ (38) ○ (39) ○ 〔得点〕 3点×9=27 [正答率(正解の小問数/全小問数)] 64% [大問における得点] 27点
<b>【Ⅳ】</b> (40) ○ (41) ○ (42) × (43) ○ (44) × (45) × (46) × (47) ○ (48) ○ 〔得点〕 5点×5=25 [正答率(正解の小問数/全小問数)] 56% [大問における得点] 25点
<b>【Ⅴ】</b> (49) ○ (50) ○ (51) × (52) ○ (53) ○ (54) × (55) ○ (56) × (57) ○ (58) ○ (59) ○ (60) - (61) × 〔得点〕 4点×8=32 [正答率(正解の小問数/全小問数)] 67% [大問における得点] 32点
<b>【合計】</b> 〔得点〕 120点 [正答率(正解の小問数/全小問数)] 58%